



2020年2月12日

各 位

会社名 三井金属鉱業株式会社
代表者名 代表取締役社長 西田 計治
(コード番号：5706 東証第一部)
お問合せ先 広報部長 杵内 哲
(TEL. 03-5437-8028)

投資有価証券売却損益の計上に関するお知らせ

当社は、2021年3月期連結決算において、投資有価証券売却損益を計上する予定となりましたので、お知らせいたします。

記

1. 当該事象の内容

当社は、2020年2月12日開催の取締役会において、当社とJX金属株式会社（以下、JX）との共同出資会社であり、当社の持分法適用関連会社であるパンパシフィック・銅工業株式会社（以下、PPC）が、その事業の一部をPPCが新設するJX金属製錬株式会社（以下、JX製錬）に承継させる吸収分割を実施し、PPCが保有するJX製錬株式を当社およびJXへ現物配当すること、およびJXとJX製錬が金銭対価の株式交換を実施することにより、JX製錬をJXの100%子会社とすることを決議いたしました。

上記の株式交換により、当社の保有するJX製錬株式はJXに移転し、同社より金銭の交付を受けることから、当社の2021年3月期の連結財務諸表において、投資有価証券売却損益を計上する予定であります。

- (1) 当社に金銭の交付を行う会社の名称
JX金属株式会社
- (2) 株式交換の時期
2020年4月1日
- (3) 株式を移転する会社の名称及び事業内容
JX金属製錬株式会社
事業の内容：電気銅等の製錬・精製受託 他
- (4) 移転する株式の数、対価、損益及び移転後の持分比率
 - ア. 移転する株式の数 3,220株
 - イ. 対価（金銭の交付） 13,700百万円
 - ウ. 損益 現時点では確定しておりません。
 - エ. 移転後の持分比率 ー%

2. 決定の理由

当社およびJXは、2000年10月に銅製品の共販会社としてPPCを設立いたしました。その後、2006年4月1日に銅製錬機能の一体運営による競争力強化のため、それぞれの銅製錬機能をPPCに移管する生産統合を行い、PPCにおいて資源開発事業、原料調達から製錬・製品販売までの銅事業一貫運営体制を構築し、これまで運営してまいりました。

生産統合以降、当社は既存の鉛・亜鉛・貴金属製錬ネットワークのシナジー追求、JXは下流事

業強化に伴う製錬事業の役割見直しなど、それぞれの事業戦略による収益拡大を模索してまいりました。この度、各々の銅製錬所の特徴・特性を熟知する当社およびJ Xが、それぞれ自社の事業ポートフォリオの中で独自に製錬所を活用していくことにより、現在の銅製錬機能の競争力をより高められると判断いたしました。

これに伴い、2020年4月1日をもって、P P Cが運営する銅製錬機能である日比製錬所および日比共同玉野製錬所（P P C保有権益分 63.51%）と、佐賀関製錬所および日立精銅工場を、それぞれ当社およびJ Xが製錬子会社として運営することといたしました。

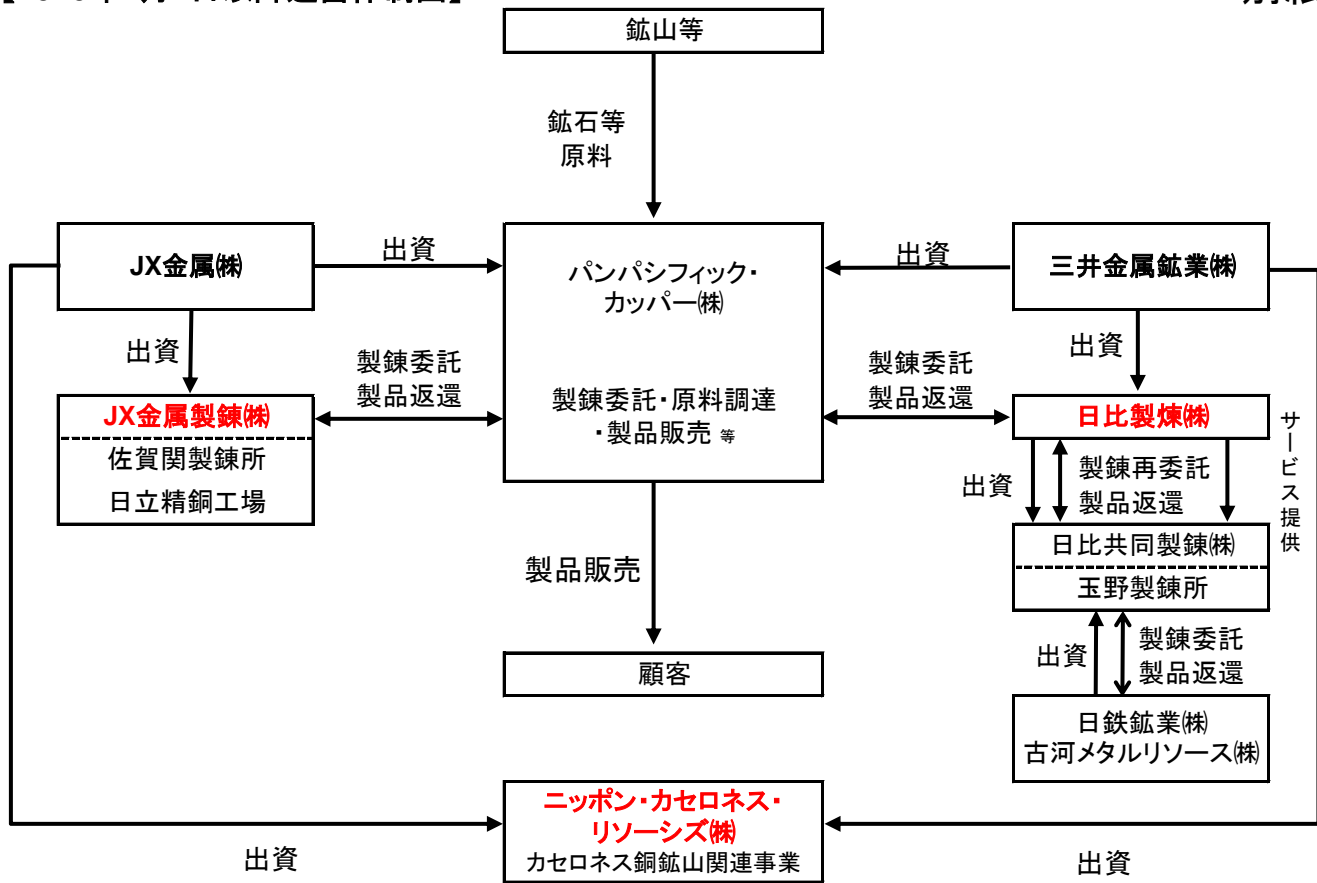
3. 業績への影響について

当該有価証券売却損益は、2021年3月期の連結決算に計上されることから、2020年3月期の当社連結業績に与える影響は発生しない見込みであります。

2021年3月期の連結決算に計上される損益が確定しましたら改めて開示いたします。

以 上

別紙：運営体制図



(注)出資比率

パンパシフィック・銅パパー(株): JX金属(株)67.8%・三井金属鉱業(株)32.2%

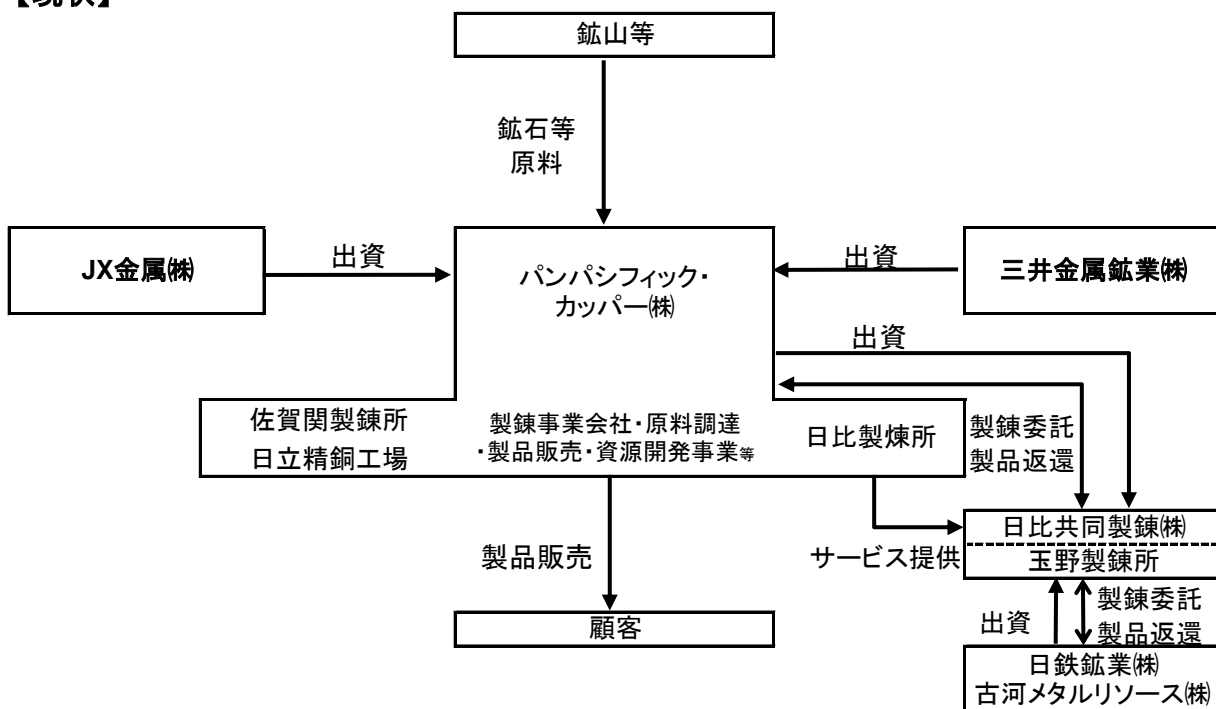
日比共同製煉(株): 日比製煉(株)63.51%・日鉄鉱業(株)20.28%・古河メタルリソース(株)16.21%

JX金属製錬(株): JX金属(株)100%

日比製煉(株): 三井金属鉱業(株)100%

ニッポン・カセロネス・リソース(株): JX金属(株)67.8%・三井金属鉱業(株)32.2%

【現状】



(注)出資比率

パンパシフィック・銅パパー(株): JX金属(株)67.8%・三井金属鉱業(株)32.2%

日比共同製煉(株): パンパシフィック・銅パパー(株)63.51%、日鉄鉱業(株)20.28%、古河メタルリソース(株)16.21%